

H29 青木村保育園の取組

ねらい	内容（・継続している取り組み ◎本年度の新たな取り組み）
①保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の児童生徒や教諭との交流保育、体験保育の実施 小学校＝音楽会・児童会祭・運動会などへの参加、 中学校＝読み聞かせのボランティア、保育体験 教職員＝体験保育 ・丁寧な就学相談の実施と情報の交換（共有） ・保小接続プログラムの検証と効果的運用 ・教育ポイント5ヶ条の推進
②多様な他者や自然とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを中心にした遊び込み ア、あおきっ子広場の活用…火曜、木曜を広場の日とする。 イ、村内の施設（くつろぎ公園・ふるさと公園・豊受神社など）の活用 ・祖父母、小中学生、ボランティア、大学生等とのかかわり ア、行事への参加 畑・水田の作業（祖父母）、保護者会作業、読み聞かせボランティア 保育体験（中学生・大学生） イ、レポートあおき（高齢者施設）の訪問（機会の拡大） ・ウ、民生児童委員の積極的な行事参加
③学力・体力向上 (学力・体力向上事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり ア 朝の日課…体操→マラソン（庭を2～3周）→鉄棒→登り棒 イ リトミックや縄跳びなど ウ 散歩 … 青木村の自然や史跡等を教材として ◎ 信州型自然型保育認定に向けた取組 ◎ 運動・生活習慣におけるスモールステップの研究 ・図書館の利用……おはなし会等事業への参加、図書の貸し出し、推薦図書の紹介 ・カウンセラーの施設巡回による、支援を必要とする児童へのタイムリーな対応 ・定住自立圏事業による研修等の機会を活用した保育士の資質向上 ・ALTの活用… 外国語への親しみと文化の学習
(評価システムの構築)	<ul style="list-style-type: none"> ・育ちの評価……保育の記録（発達の状況） やったるカード等による記録と評価
④子どもと向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・延長保育での絵本の読み聞かせの実施 ・子どもと向き合う保育の充実
⑤一人一人を大切にす教育	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害のある幼児への支援体制の整備 ア、カウンセラーの定期的な訪問（育ちの確認、職員への指導、相談） 支援の必要な園児とその保護者、双方への支援 イ、発達障害に対する理解（全園児・保護者への啓蒙） ・個別支援計画の作成 ・園内研究会の実施（情報の交換と共有）

青木小学校の取組(H29)

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組 ◎本年度特に力を入れたい取組
①保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「あおきっ子教育ポイント5か条」のPTAを主体とした実践 ・保小の音楽会での交流 ◎1年生及び来入児に関わって 保小接続プログラム作成に向けての実践（行事等を中心に） ◎6年生に関わって 中学校の理科教員による小学校での授業 家庭科における小中連携の模索 中学校での授業体験、中学校入学に向けた中学校校長講話 こまゆみ祭への参加、中学校体験入学の実施（授業、部活動の参観） ◎保小中間の連携を密にした移行支援会議の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・3,4組と中学校C,D組との交流 ・地区子ども会やPTA地区懇談会の連携した運営 ・4月・11月の小中合同研修（西留先生、同和教育）
②多様な他者や自然とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活科、総合的な学習の時間を中心とした青木村を愛する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・あおきっ子通学合宿（4～6年） ・農村体験の実施（4・5年） ◎学校内外におけるあいさつ運動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・コムラサキ公演、レポート青木への訪問交流 ・自然の中で思いっきり走ったり、遊んだりする体力づくり
③学力・体力向上 (学力・体力向上事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を使った寺子屋 ・花まる学習会による思考力向上授業、花まる漢字テストの実施 ・朝のドリルの時間を使っての花まる学習（各学級担任による実践） ・「家庭学習の手引き」の配布、自由課題プリント（漢字・計算）等による家庭学習の充実 ・「学び合い」を位置付けた授業の実践（追究を支える板書のあり方、ノート指導） ◎協働的、能動的な問題解決学習の実践 ◎身体を動かす遊びやマラソンを中心にした体力づくり <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの有効活用
(評価システムの構築)	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの実態をもとに、協働的、能動的な問題解決学習の方向を探る研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ型研究会の実施、授業改善に生きる研究 ・全国学力検査（6年）及び県PDCA事業（5年）CRT（各学年）の実施分析、分析結果に基づいた指導改善のための目標設定と評価検証 ・PDCAサイクルによる、教師の自己評価指標の作成
④子どもと向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・諸会合の精選（職員会は月1回で実施） ・DCAPサイクルによる反省と来年度の実施計画の作成 ◎子どもと向き合う時間の充実、水曜日「ふれあい」の時間の有効活用 ◎児童と共に行う気づきの清掃
⑤一人一人を大切にす る教育	<ul style="list-style-type: none"> ◎個別の支援計画の作成 (支援計画をもとに支援会議、連携した支援の実践、専門家との連携、次年度への引継) ◎インクルーシブ教育システム構築事業による、合理的配慮を大切にす教育

	<p>◎インクルーシブ教育についての職員研修システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園や中学校と連携した就学相談 ・ 人権教育・道徳教育の充実、食育・読書旬間等による心豊かな児童の育成
--	---

H29 青木中学校の取組

重 点	内 容（・継続している取組 ◎本年度の重点的な取組）
①保小中 一貫教育	<p>◎「あおきっ子教育ポイント5か条」を基本にした実践 挨拶 家庭学習＋ノーメディアウィークの実施（定期テスト前）</p> <p>◎6年生に関わっての小中連携 中学校体験・中学職員による理科授業・こまゆみ祭見学 小学校家庭科への支援（家庭科室備品用具整備など） 入学説明会・部活動見学・中学校長による講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上への取組（あおきっ子の体力分析） ・特別支援学級における小中連携 収穫祭（コロッケパーティー）・作品展見学等 ・地区子ども会、PTA地区懇談会共同開催（年2回会場：青木小） ・合同職員研修（4月西留先生研修会・10月人権研修会） ・保育研修への参加
②多様な他者 や自然との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の重点「心の挨拶」（挨拶週間、車座集会による意見交換） ・総合的な学習の時間「アイリスセミナー」（村の素晴らしさに触れ、地域の方々の生き方を学ぶ） 年4回開催 11講座（茶道・ミツバチ・陶芸・そば打ち・里山に学ぶ等） ◎学年総合指導計画の見直し ・伝統芸能（「義民太鼓」・下奈良本、入奈良本地区「神楽」）の継承 ・国際交流（マリスタ・サイオン・カレッジとの交流） H28は、生徒3名、教員3名受け入れ ・信大文学部学生との交流 ・職場体験学習（職業講話＋2年村内実施） ・防災講座 ・読書指導 朗読の会 ・青木協議会の傍聴 ・進路学習（中3）先輩（高校生）の話、高校（教頭）の話 ◎高1ギャップ キャリア教育に関わって 村当局の方を招いて、総合的な学習の時間として年に2～3時間（3名程度）講話
③学力・体力 向上	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習「ゴテラ」（毎週月曜、補充ゴテラ・自主ゴテラ）、定期テスト前「みんなでゴテラ」 ・ウィークエンドスタディ（週末家庭学習）による基礎基本の定着 ・漢字道場（国 年8回） ・満点プリント・攻略ドリル（英、数） ◎スキルアップ授業研修会の実施 ・「授業がもっとよくなる3観点」に基づいた授業改善・見とどけの質の向上 ・発言リレー、言語技を中心とした「学び合い」 ・「全国学力調査」（全学年）、「全国学力学習状況調査」（3年）、県PDCA事業（12年） 実施及び結果の検証→授業づくりへの反映 ・「青中ウォーミングアップ」（保健体育授業の前に行う体力向上への取組） ◎体力面での課題単元重点化 ◎英語ALTの積極的な活用
④子どもと 向き合う 時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ノー部活デーの設定（毎週月曜） ・部活動外部講師の委嘱 剣道部、バレー部、野球部 ・学期末の学級の時間の設定（5時間授業） ・相談の時間の活用 計6時間 担任対談、生徒読書・ブックトーク （年2回、生徒全員と担任の相談時間を設定。生徒の思いに寄り添った指導の充実） ・生徒理解の時間設定（職員会、職員朝会） ・諸会合の精選（DCAPサイクルによる行事の反省・立案）
⑤一人一人を 大切にする 教育	<p>◎生徒理解、発達障がい等に関する教職員研修 発達障がい支援力アップ出前研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の推進（全ての生徒にとってわかりやすい学習環境・授業づくり）

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・支援会議の実施（予防的取組）・心の相談員、スクールカウンセラー、外部機関との連携・個別の支援計画、指導計画の作成・人権月間（年2回、アンケートの実施、校長講話、人権学習）の実施◎道徳教育の推進（全体計画の作成、指導資料の共有化）・図書館教育、食育の推進（健康で心豊かな生徒の育成） |
|--|--|